

平成26年度 西東京市立 泉小学校 学校関係者評価表						
学校教育目標 ・進んで学ぶ子 ・助け合う子 ・元気な子						
目指す学校像（ビジョン）						
【目指す学校像】 満足感、充実感で笑顔があふれる学校						
【目指す児童像】 「知・徳・体」のバランスのとれた生き生きとした子						
【目指す教師像】 教育の正否を最終的に決定するのは教師の在り方であるという自覚をもち、自己研鑽に努める教師						
前年度までの学校経営上の成果と課題						
・成果 学習面、生活面で個に応じた手立ての工夫を行ってきたことで、以前より意欲的に学習に取り組み、規律正しい生活ができるようになってきた。						
・課題 スモールステップの活用、学習、生活の場のユニバーサルデザイン化がより一層必要である。						
	具体的方策	学校自己評価		学校の取組み及び改善策	学校関係者評価	学校関係者評価記入欄
		努力目標	成果目標			
確かな学力の向上	習熟タイムの設定等の習熟方法を工夫し、年間4回、漢字と計算についての定着率を診断テストで調査する。	4	漢字3 計算2	泉小は朝の時間を利用して、漢字や計算技能の習熟の時間に充てている。低学年と高学年で計算に関してはよくできていたが、算数に苦手な生じやすい4年生で低く出た。実際に実施している学習内容に沿った問題で自信を持って取り組ませる必要があるかもしれない。計算も漢字も家庭学習と連携して効果をあげているが、苦手な子がある程度あるので、その子たちに基本的な学力を付ける工夫が必要である。	3	・学校は、高い目標を掲げているので、漢字・計算の自己評価が低くなるのだと思う。高学年児童の学力をどのように高めていくか、家庭との連携が求められると思う。 ・計算、漢字は、小学生の間にきっちり定着してほしい内容である。手立ての工夫を継続してほしい。 ・学習意欲が高まっているといふので、それが学力向上につながると思う。
	授業づくりスタンダードの項目をもとに授業づくりの工夫を継続して行い、年間3回、児童の意識調査を実施して意欲の高まりを把握する。	4	自力解決3 家庭学習2 学習意欲3 学習準備4	学習スタンダードに基づいた学習の準備はしっかりできている。授業に意欲を持って参加している児童、興味を持って日々を過ごしている児童は80%におよび、学校での学習を有意義に送っている児童が多いが、そうでない児童も依然としている。また、宿題はどのクラスでも毎日出しているが、それ以外に家庭学習をしていないという児童が30%あり、目的を持って自分のために学習する児童を育てていく必要がある。	4	・児童が楽しく意欲的に学習しているので良い。授業がわからないと答えた5%の子には、卒業までには手だが必要だと思う。 ・授業が分からない…という5%の児童へのフォローをよろしく願いたい。 ・家庭では、宿題を朝の時間にやらせている。放課後、子供たちもいろいろな活動をしているので、それぞれの家庭の工夫が必要である。(保護者代表より)
	読書カード等を工夫し、読書に対する興味、関心をもち、読書量調査を年間3回実施する。	4	4	全体的に読書量の増加が見られた。特に、1年生については一人あたりの平均完読冊数が7月の7.9冊から1月には4.8.6冊になっている。冊数については、高学年ほど厚い本を読む傾向があるため、一概に比較することはできないが、個人内での評価としては十分目標を達成したと言える。今後も、読書の時間の確保と、学習活動と図書館との連携を進めることで、いっそうの成果が期待できる。	4	・映像の力がとても大きくなってきている現代社会の中で文字で読む力をつけようとしているのは良い。書く力をつけることにもつながる。 ・保護者の方も、子どもたちの読書の状況がわかるような仕組みがあるといいのかもしれないと今日皆さんのご意見を聞いて感じた。 ・学習のために音読の成果が出ていると感じる。 ・調べ学習で本を使わない傾向にあるのは気になる。パソコンと同様に図書館を活用させたい。
豊かな心の育成	道徳の時間に重点項目について学期2回以上指導し、年間3回、道徳的判断力が高まったかを調査する。	4	3	前回と同様「友だちとよく話したり、遊んだりしている。」という質問に97%の児童が肯定的な答えをしており、継続していることがわかる。他にも、「人が困っているときは、進んでたすけている。」86%、「児童会や学校行事などにおいて、学校の一員としての役わりや責任をしっかりと果たしている。」82%の児童が肯定的な答えをしており、道徳的な意識が高いことが見受けられる。しかし「廊下などですれ違ったときに進んであいさつをしている。」という質問では、67%が肯定的な答えと前回同様低いことがわかった。低学年は90%肯定的な答えなので、3年生から上の学年になると、低くなっていくことが分かった。あいさつ週間やあいさつカードの取り組みを継続しつつ、日々教員がお手本となるような挨拶する姿を見せようとする必要がある。	4	・友達と仲よく遊ぶ力があるのは良い。挨拶は、家庭でも学校でも地域でもとびかうようにしたい。そのための工夫が求められる。 ・子供たちのよさは素直さ一所懸命さであるが、おとなしい面があり、それが元気な挨拶につながらないようである。先生方が元気にあいさつすることも効果があると思う。 ・校外でたてわり班の子に会ったときには、声をかけるように言っている。(保護者代表より)
	特別活動等を通して異学年と関わる場を多く設定し、年間3回、児童の意識調査を実施する。	4	3	縦割り活動を通じて、班の子供たちが関わり合いながら、男女関係なく話したり運動したりしていた。また、計画なども下学年の遊びたい種目などを聞きながら企画に生かしている班が多くあった。しかし、普段の休み時間においては、他の学年の人と話したり、遊んでいる児童の割合がアンケートでも52.5%が遊んでいると、若干少ない傾向にあった。今後、高学年は下学年のお世話ができるように下学年は高学年をお手本にできるような関係づくりをしていけるよう、声をかけていく。	4	・異学年交流の場が増えているのは良い。 ・6年生のたてわり班長をあこがれの存在としている。その伝統が積み上げられている。 ・放課後のスポーツクラブ仲間も、他の学年と遊んでいる。そこから輪が広がると良い。
健やかな体の育成	体育集会等を実施し、体力の向上を図る。年度当初の体力テストで重点種目を決定し、学期ごとに重点種目の体力テストで実態を調査する。	4	4	昨年度の体力テストの結果から今年度は8種目中、6種目が平均を大幅に更新できていた。また、自分自身で、課題の種目を明らかにして、2学期にその種目だけ測定した結果、全体の65%の児童が記録を更新できた。なわとび大会や走ろう大会の練習では、中休みに全児童が校庭に出て、一生懸命練習する姿が見られ、体力向上に向けて意欲が高められている。今後も外遊びを励行できるように先生方も協力したり、友達同士で遊べる機会を増やしたりしていく。	4	・体力テスト等から体力が向上していると分かり安心した。 ・帰宅すると外遊びをしないようである。外遊びの工夫や楽しさを教えてほしい。 ・実際の運動会の様子を見せ、しっかりと体力作りがされていると感じた。
	主任養護教諭の指導のもと、保健指導の場を昨年度より増加し、保健指導の充実を図り、また、栄養士と連携し食育指導を行い、年間3回、児童の健康に関する意識調査を行う。	4	2	健康診断時や学校行事に伴う事前指導などで生活習慣の大切さについて指導をし、各月毎に保健目標に沿って学級指導を実施した。1学期に比べ、起きる時間を決めている児童が全体で1%増えたほか、児童の生活の振りかえり評価が低くなっているが、朝食や睡眠、運動の取り組みを行ったと答えた児童が多く、自己の問題点を把握し改善していこうとする意欲が見られた。	3	・健康に関して関心や意識が高いのは良い。家庭の意識を高めることが必要である。 ・起床時間を決めている児童が増えたのは良いが、それぞれの起床時間の傾向が分かると良かった。 ・朝の時間にマラソンをさせているが、リズムができて良い。朝の時間の運動は大切である。(保護者代表より)
地域と歩む学校	青少年育成会の行事に学校として積極的に参加充実させ、保護者アンケートの満足度を調査する。	4	4	育成会主催のわくわくコンサートには全ての教員が参加し、まちフェス・わんぱくずもうなどの行事にも主任教諭や主幹幹論などが参加した。統合校や近隣校の学校行事にも、多くの教員が休日を返上して参加した。前期の集計では「積極的に参加している」と答えた教員は58%であったが、後期は86%に上がった。これは、行事の開催時期が前期にはあまりなかったためである。教員の意識は年度当初から高く地域・保護者と連携して教育活動を行おうとしていた。	4	・保護者アンケートの文言を工夫すると、もっと満足度があがると思う。 ・先生の地域行事への参加は家庭での話題になったり、保護者間でもよく話しに出ている。地域のおまつりなどに参加するとより地域が分かると思う。 ・先生方の頑張りや保護者側に伝わりきれていないのは、とても残念を感じる。いい意味での“アビール”の仕方が、もっともって工夫の余地あり…かなと思う。 ・育成会の夏まつり、わくわくコンサート、挨拶運動等、積極的に参加・協力していただいていると思う。
	学校だより、学年だより、保健だより、給食だより、図書館だより等は毎月1回以上、学級だよりは毎月2回以上発行し、ホームページも充実を図り、保護者アンケートの満足度を調査する。	4	4	定期的なおたよりの発行については、前期は92%、後期は100%の教員が、きちんと行った。学校だより・学年だより・保健だより・給食だより・図書館だよりは毎月欠かさず月初めに発行した。学級だよりについては教員によって発行枚数に個人差はあるが、どの教員も「写真を活用したお便り」を通じて学級の様子を家庭に知らせる努力をしていた。内容は今後さらに充実していきたい。	4	・情報の伝達や理解を、これからも進めていってほしい。 ・地域の人間にとって各種お便りは学校で今何がおこなわれているのかを知ることができる。 ・定期的に学級だよりが発行されているので、子供の学校での活動や様子が分かり助かっている。